

インフルエンザ流行が注意報レベルに！

はじめに

国立感染症研究所は、1月第2週にはインフルエンザ患者報告数がすべての都道府県で増えたと発表しました。大阪を含む26県で1医療機関当たりの患者報告数が10人を超え(注意報レベル)、流行が本格化しており、藤井寺保健所管轄地域ですすでに注意報レベルとなっておりま

す。今年に検出されたウィルスの種類は、昨年流行した新型が87%でした。また、昨季の患者数が少なかった20歳以上が過半数(57.7%)を占めているのが特徴で、免疫を持っていないのが背景とみられます。

インフルエンザとは？

インフルエンザは、突然現れる高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が強いのが特徴で、併せてのどの痛み、鼻汁、咳などの症状も見られます。通常高熱が数日持続し、1週間程度で回復します。ただ時には、合併症を伴い重症となることもあり、わが国では、例年12月、3月がインフルエンザの流行シーズンです。

●インフルエンザと風邪の違い

	インフルエンザ	普通の風邪
感染力	強い 短期間のうちに広範囲に流行	弱い
症状	重い 高熱(38~40℃) 倦怠感などの全身症状	軽い 鼻水、くしゃみ、発熱を伴うものもある
経過	急激な高熱で発症	緩慢に経過

予防方法

日常生活ではまず、体調を整えて抵抗力をつけ、ウイルスに接触しないことが大切です。また、インフルエンザウイルスは湿度に

非常に弱いので、室内を加湿器などで適度な湿度に保つことは有効な予防方法です。またインフルエンザシーズン前にワクチン接種を受けることが予防の基礎です。予防接種を受ける

けることでインフルエンザにかかりにくくなり、かかっても重症化しにくくなります。しかし、流行した型が違う場合など、100%かからないわけではありませんから注意が必要です。

●インフルエンザワクチン

2009/2010シーズン	2010/2011シーズン
A香港型、Aソ連型、B型の3価ワクチン	新型、A香港型、B型の3価ワクチン (新型インフルエンザのみの1価ワクチンもあります)
新型インフルエンザワクチン	

インフルエンザ検査

予防をしてもインフルエンザに罹患する場合があります。高熱、関節痛などの症状がでたりすれば、診療所や病院にて受診し検査をされるのですが、近年、迅速にインフルエンザを診断するキットが普及してきています。当院でも検査キットを備えおりA型およびB型インフルエンザも約10〜15分程度で結果が出ます。

しかし、感染の初期はまだウイルス量が少なく、インフルエンザであるにもかかわらず、検査結果が陰性になる可能性がかなりあります。検査で陽性と出た場合にはほぼインフルエンザと断定して間違いはありませんが、陰性と出た場合にはインフルエンザであることもインフルエンザでないこともありえます。

特に発病後12時間以内は感度が低いためインフルエンザであるのに検査では陰性となる可能性があります。発熱した24時間以降48時間以内が検査の陽性率も高く抗インフルエンザ薬の効果も期待できる時間帯と云うことになりました。いずれにしても、発熱したら直ぐにでも受診してインフルエンザの検査を受けることが良いというわけではありません。

治療方法

インフルエンザに罹患してしまった場合治療が必要となります。症状出現から48時間以内であれば抗インフルエンザ薬が効果的です。最近では、新たな治療薬が相次いで登場しており、従来からある「タミフル」(経口薬)、「リレンザ」(吸入薬)に加え、点滴薬の「ラピアクタ」や吸入薬の「イナビル」が発売されました。点滴薬のラピアクタは経口投与や吸入による治療ができない患者にとつて確実に投与できるというメリットがあります。イナビルは1回の投与で効果が持続するという点で優れているという一方、従来のタミフルやリレンザは使用実績が豊富なことに加え、新型インフルエンザ治療でも威力を発揮した実績があります。それぞれの薬に特徴があり、症状などで薬剤の使い分けがされます。内科での適切な治療を受診し、他の人への感染防止に努めてください。